

# 逗子市議会議員

# さぎさか ゆうじ 活動レポート vol.35

～無所属で活動中～



## ■さぎさか ゆうじ(匂坂祐二) プロフィール■

1970年2月14日生まれ A型 49歳 逗子市沼間1-8-2

略歴：沼間小卒業・逗子中卒業・私立横浜商工高等学校卒業（有）匂坂畳店入社  
 逗子市商工会青年部部長・逗子葉山青年会議所理事長・逗子葉山建設組合青年部長  
 沼間小PTA会長・逗子中PTA会長・市PTA連絡協議会会長・県PTA執行役員  
 家族構成：妻と長女(大学3年) 次女(中学3年) 長男(中学1年)

議会職歴：基地対策特別委員長、予算・決算特別委員長、議会運営委員長

総務常任委員長、教育民生常任委員長 現在 三期目 所属会派 市政クラブ

## 令和元年第4回定例会報告

第4回定例会が12月3日～18日に行われました。今定例会では、令和元年度の一般会計補正

予算及び4事業特別会計補正予算が提出され、可決されました。主な内容として、台風15号又は19号により生じた市内施設等の被害についての応急復旧等の経費、その他の主な議案は、逗子市福祉会館の指定管理者の指定について(可決)、逗子市印鑑条例の一部改正について(可決)、逗子市保育所条例の一部改正について(可決)、逗子市放課後児童クラブ条例の一部改正について(可決)、逗子市コミュニティセンター条例の一部改正について(可決)、逗子文化プラザ市民交流センター条例の一部改正について(可決)、逗子市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正について(可決)、逗子市都市公園条例の一部改正について(可決)、逗子市下水道条例の一部改正について(可決)、逗子市立体育館条例の一部改正について(可決)、教育委員会委員の任命について(可決)、その他、陳情、意見書案の審議がされました。

## [平成30年度の決算状況]

健全な財政運営の原則である収支の均衡及び財政構造の弾力性についての比率の推移

### 財務比率の推移

	実質収支比率	経常収支比率	公債費比率	財政力指数
平成30年度	9.0%	92.5%	8.2%	0.871
平成29年度	6.8%	97.7%	9.4%	0.871
平成28年度	3.9%	101.5%	10.2%	0.872

実質収支比率：標準財政規模に対する割合。一般的には3～5%が望ましいとされている。

経常収支比率：経常一般財源に対する経常的経費の割合。

一般的には70～80%が望ましいとされている。

公債費比率：経常一般財源に占める公債費の一般財源所要額の比率。

一般的には10%以内が望ましいとされている。

財政力指数：財政上の能力を示す指数。この指数が1を超えるほど財源に余裕がある。

経常収支比率は、経常一般財源等 12,562,517 千円に対し、経常的経費充当一般財源 11,617,223 千円で、92.5%(前年 97.7%)となっている。経常収支比率は、前年度と比較して 5.2 ポイント下回り、大幅な改善が見られました。今後も、経費の削減と効率的な財政運営が求められます。

## 台風15号・19号の市内被害状況

## 今回の台風災害を踏まえ、風水害対策を

台風15号・19号によって、本市でも倒木や土砂崩れによって、何日も道路が通行止めになったり、台風に伴って電車が計画運休したりと市民生活に大きな影響がありました。また、台風15号では、倒木により配電施設が損傷したことにより、一部の地域で最大55時間の停電が起きました。

今例会の一般質問で、今回の台風災害を踏まえて、今後の市の取組について質問しました。

**市長** 課題として、①長期の停電に対する対応、②避難者が700人を超える状況になった避難所の在り方、避難者への情報提供、③防災無線が聞き取りにくい等、広報の周知

### 担当部長

- ① 東電パワーグリッドと連携、東電へ対応の強化を求める。停電地区に広報車で情報提供。停電地区に近い公共施設を避難所として開放
- ② 避難所の在り方を改めて検討する。
- ③ 市民の皆様への災害情報を防災行政無線、安全安心メール、ホームページ等実施してきた。停電してしまうと情報が行き届かないので、広報車を巡回したり、昼間であれば市の広報板等も活用して、情報提供をさせていただき、今後とも強化していきたい。

	台風15号	台風19号
人的被害	なし	1人(軽傷)
住家被害	半壊 1件 一部破損 32件 床上浸水 1件	半壊 1件 一部破損 45件 床上浸水 0件
非住家被害	6件	4件
停電	4,900軒	1,166軒
倒木	7件	44件
がけ崩れ	10件	3件

## 子育てしやすいまち～多胎児の育児支援を～

## 学校施設の老朽化～市の責任で予算化を～

**問** 双子、三つ子など多胎児の育児は特有な大変さがあり、また、核家族化などにより、子育てを援助、相談できる人がそばにいない状況が多い。本市でも何らかの支援策を検討すべきでないか考えますが、市の考えをお聞きます。

**問** 学校施設の老朽化が進み、危険性や雨漏り等未修繕の箇所があり、保護者の声からPTAで寄付を募り自ら実施したそうだが、児童・生徒に危険な箇所については、市がしっかりと予算化、修繕すべきと考えるが、教育長の考えをお聞きます。

### 市長

育児不安などから虐待などにつながらないよう、保健師等が訪問し相談をうけており、昨年4月からは産後ケア事業を実施している。多胎児に限らず、年子、多子家庭など、どのような支援が必要か検討を行います。

### 教育長

本来は設置者、地方公共団体が修繕、経費負担を行うのは当然であるが、いろいろな意味で子どもたちの環境を整えるということから、保護者や地域の方々にも、ぜひともお力添えをいただきたい。

皆様の声を聞かせて下さい。市政に対するご意見、ご要望をお待ちしています。

	御名前
	御住所
	連絡先

送り先FAX 046-871-3552 TEL 046-871-3526 e-mail: [sagisaka@plum.ocn.ne.jp](mailto:sagisaka@plum.ocn.ne.jp)

発行責任者: 匂坂祐二(さぎさかゆうじ) ポスティング ボランティアを募集しています。御協力お願い致します。